



「源氏物語」千年紀 須磨・明石

光源氏の足跡を訪ねて

1 今年、千年目の月見に出かけよう

神戸市立

須磨離宮公園

ふだんはバラ園として有名な須磨離宮公園で、

この秋はぜひ月見を楽しんでほしい。

須磨の海に映る月は情緒にあふれている。

また10月11日・12日に開催される源氏物語千年紀イベント

「須磨離宮 月見の宴」もご紹介。



もとは、天皇がご宿泊される別

荘として、西本願寺・大谷別邸を

買収し「武庫離宮」として造営さ

れたのが、現在の「神戸市立須磨

離宮公園」。「武庫離宮」は、神戸

大空襲により焼失したが、大正、



園内にある月見台

昭和の歴代天皇が訪れた地でもあり、園内には美しい離宮のなごりが残されている。今上天皇御成婚記念事業として、昭和42年に園として完成、現在、広大な敷地内にはベルサイユ宮殿を思わせる整形式庭園が広がり、噴水広場、バラ園、植物園などがある、緑と水の憩いの場となっている。

バラ園では、初夏と秋の最盛期を中心に、ほぼ年間を通じて、数々のバラに出会うことができ、もと離宮であった場所にちなんで「王侯貴族のバラ園」が造られている。「クイーン・エリザベス」「ダイアナ・プリンセス・オブ・ウェールズ」「プリンス・ミチコ」など、歴代プリンセスの名のついたバラなど、約

180種のバラが咲き誇る。ほかにも、花しょうぶ園、本園から連絡橋でつながる植物園なども。

この公園の一角にあるのが「月見台」。この月見台では、光源氏のモデルとなった人物の二人といわれる平安貴族・在原行平が月見をしたとも言われる、由緒ある場所だ。空の月と、海に映る月、両方の美しい月が望める須磨の地は、江戸時代の名所図絵などで「月見の名所」として全国的にも有名になる。松尾芭蕉も、須磨を訪れ、月見を楽しんだという。

現在は、「行平月見の松跡」の碑が残り、その数メートル先には、見晴台が造られ、須磨の海を眺める人々の間にゆつたりとした時間



バラ園と整形式庭園



千年紀に合わせ
「源氏物語ゆかりの植物」展が開かれている



が流れている。
園内では、「源氏物語千年紀」に合わせてさまざまなイベントが。物語内に登場する「薔薇（さうび）」や「松」などの植物を紹介する「源氏物語ゆかりの植物展」。また、押し花によって源氏の世界を描いた、雅やかな絵巻が展示された「須磨明石の名月展」。それぞれ11月30日（日）まで開催されている。

■神戸市立須磨離宮公園
☎0787326688
神戸市須磨区東須磨1-1
開園 9:00～17:00
木曜休園
入園料 400円（駐車場500円）
<http://www.kobe-park.or.jp/kikyū/>



名月のもと、 源氏の世界を楽しむ 「須磨離宮 月見の宴」

10月11日(土)12日(日)の夕べ
には、光源氏の時代から千年のときをこえた月見を楽しみながら、千年を迎えた『源氏物語』のさま

ざまな世界を楽しむ「月見の宴」が、須磨離宮公園内で開催される。左ページのプログラムを見ていただくとうわかる通り、歌、舞、きものショー、ミュージカル、和太鼓などさまざまなジャンルによる『源氏物語』の世界を、堪能することができると。

その中で「きものショー」は、神



神戸女子大学のきものショーを担当する皆さんと岡本先生

戸女子大学被服平面構成研究室の学生7名の皆さんによるもの。普段は、岡本陽子教授のもと、着物の歴史や和装制作などを学ぶ学生たちが、「光源氏と13人の女君」をテーマに、ショーを構成。光源氏と、紫の上は平安の装束で、あとの12人の姫君の衣裳は、物語を読みときながら制作された現代の着物。生地は、古着で探したり、自分で染めたものも。「学生たちが、それぞれの姫君の登場場面や、性格描写からイメージした着物を制作しました。皆さんのイメージと重ね合わせていただければ、もつと物語を楽しめるのでは」と岡本先生。ぜひご覧ください。

13日(月)には、千年の時空をこえて現代風の月見を楽しむ「天体観測会」も予定されている。



昨年のステージより

須磨離宮「月見の宴」

10月11日(土)・12日(日)

第1夜 ～むらさき～10月11日(土)

雨天の場合
10月13日に延期

◆第1部

- ・源氏物語千年の月を詠む夕べ……………17:00～17:30

◆第2部

- ・源氏物語と月見の話……………17:30～
NPO法人須磨歴史倶楽部 理事長:西海淳二
- ・源氏物語千年紀応援歌「むらさき日記」
服部浩子
- ・コーラス
神戸女子大学コーラス部
- ・一絃「須磨琴」
一絃須磨琴保存会(県無形文化財)
- ・地唄舞「松風」・「明石の上」
大和松詩(兵庫県文化賞受賞者)
- ・月見の舞～華～
ダンシングチームKIRARA
- ・きものショー「光源氏と13人の女君」
神戸女子大学被服平面構成研究室
- ・「明石の君」
- ・月を詠んだ短歌、俳句の優秀作品朗詠



大和松詩

第2夜 ～須磨源氏～10月12日(日)

雨天の場合
神戸女子大で実施

◆第1部

- ・子どもミュージカル「光の君千年目の月見」
……………17:00～17:45
共催/須磨・明石子どもミュージカル実行委員会



子どもミュージカル

◆第2部

- ・和太鼓『松村組』……………19:00～



源氏物語千年紀関連イベント

○須磨明石の名月展

日時:開催中～11月30日(日)
会場:レストラン花離宮2F
押し花絵巻(新井愛子)他

○そら祭り神戸

日時:10月4日(土)(小雨決行)
・ステージコーナー13:00～18:00(～19:00まで月見)
丸山茂樹 他ライブ
・環境に取り組み模擬店コーナー12:00～19:00
共催:「そら祭り神戸」実行委員会
そら祭り神戸HP <http://soramatsuri.com>

○源氏物語ゆかりの植物展

日時:開催中～11月30日(日)
協力:須磨離宮植物友の会

～エビローグ～ 10月13日(月・祝)

- ・源氏物語グリーンアドベンチャー……………10:00～
植物園にて 当日受付(雨天中止)
- ・源氏物語千年の月天体観測会……………18:00～
月見台休憩所にて 当日受付(雨天中止)

2 芭蕉も愛した源氏寺

藩架山 現光寺

光源氏が都を離れて移り住んだ須磨。この地に、「源氏寺」として親しまれた古刹「現光寺」がある。千年紀を迎えた本年、講話で、舞臺で、筆曲で、源氏物語の世界へといざなう。



「源氏寺」として知られる現光寺。菅野清峯書

氏ゆかりの寺として知られ、全国から源氏物語ファンや国文学の専門家などの来訪が絶えない。

言うまでも

なく源氏物語

イメージが
現となった場所

の石碑に刻まれた芭蕉の句で、今でも境内にある。芭蕉が須磨を訪ねた際にこの寺を宿としたようだが、光源氏の面影を胸に秋の景色を見渡したのであろうか。

見渡せば

ながむれば見れば 須磨の秋

芭蕉

浦風そよぐ須磨の地。波の音
さえかき消されるしじまの中
に、藩架山現光寺は佇んでいる。

現光寺は須磨に流された光源

はあくまでも物語で、光源氏も実在の人物ではない。しかし、この古刹は「源氏寺」として親しまれている。寛政10年（1798）刊の『摂津名所図絵』をひもとけば「光源氏旧跡」として紹介され、ここに松尾芭蕉の碑がある」と記されている。冒頭の句はそ

では、なぜ現光寺が光源氏ゆかりの地として定着していったのであろう。もともとここは「源光寺」であったが、源平合戦に巻き込まれるのを恐れて「現光寺」と改名したという説は、なるほど、光、源氏ということであろうか。

源氏物語の須磨の巻には、光



源氏邸は海から少し入ったしみじみと物寂しい山の中で、垣根のしつらいも物珍しいと描写されている。そんな屋敷に遣り水を少し深く引き入れたとも記されている。また、行平中納言が「関吹き越ゆる」と詠んだ浦風に荒れる波の音が夜ごとに聞こ

えるともある。

かつてこのあたりは、関守たちもせせらぎを耳にしたであろう千の森の中を流れてきた千森川が流れ、その川端には大きな樹木が生い茂っていたと住職は話す。海からほどよい距離感。千森川の流れ。そして鬱蒼と生

本堂前には、黒松が雄々しく聳え立つ。黒松越しに月を眺めて、都に思いをはせる



「見渡せば
ながむれば見れば 須磨の秋」
芭蕉



「読みさして
月が出るなり 須磨の巻」
子規

い茂る樹木。紫式部のイメージがまるで現となったような現光寺のロケーションと風情に触れれば、そこに光源氏の影を見るのは自然なことだったのかもしれない。

今や震災復興工事で千森川は暗渠となり、大樹たちも姿を消したが、ひんやりとした山の空気が浜風に融けるこの場所は、どこか不思議な雰囲気包まれている。

海つら やゝ入りて

あはれにすげなる

山中なり 須磨の巻



源氏物語を描いた屏風(扇面)は、江戸時代に描かれた

新しい本堂で、 新しい物語を

明治のはじめ、「川東左右関所跡」と刻まれた標石が境内の裏手から掘り出された。山が海に迫り、海も海峡に近い自然の要害・須磨の中でも現光寺近辺は地形的に関所に適していたのかもしれない。ここにかつて須磨の関があつたという説が石碑とともに湧き出てきたことも頷ける。

本堂は阪神・淡路大震災で全壊したが、6年前に再建された。「源氏物語同様、千年愛されるように」と、年を重ねるごとに荘厳さを増していく総ひのき造りの伽藍。そのふすま絵には、19枚の源氏絵巻が描かれ、物語を今に伝えている。また、源氏物語の場面を描いた古い屏風もこの寺に代々所蔵されている。

千年愛された源氏物語とともに、現光寺は次の千年へ、新たな歴史を歩み出している。

藩架の地の風情は

千年の時を超えて

現光寺 片岡御冬 住職

現光寺は阪神・淡路大震災で本堂、庫裡、山門、鐘樓が倒壊しました。新しい本堂の前の広場に昔の本堂が建っておりまし



前田敦子書

た。幸い、本堂の裏にあった書院が少し傾きましたが、家起こして修理し、現在の本堂ができるまで仮本堂兼住まいとしておりました。震災から7年ほど後に、みなさまのおかげで本堂を再建することができました。

山号は「藩架山」といいま

す。「藩」とは「境界」という意味もあり、そこに架かる垣根ということなのでしょう。かつて垣根は高貴な方のお屋敷にあったものです。昔の垣根は小柴垣で、そこに名もないような花が咲いていたことでしょう。きつと光源氏のお屋敷にも、そんな垣根があったのでしょうか。

三十年程前、源氏物語の研究では第一人者といわれた国文学者の山岸徳平先生が山号を「ませがきざん」と読まれ、現光寺を訪ねてよかったとおっしゃったことが今も印象に残っています。

光源氏はもちろん架空の人物



24枚の扇面には、光源氏の生涯が描かれる



こちらは、須磨の浜辺を描いたものであろうか



こちらの屏風には、宮中の様子が繊細に描かれている



蒔絵を施した硯箱



ですが、光源氏のモデルといわれる源高明が須磨に流されたという言い伝えがあります。国境で海と山にはさまれた須磨は、当時、そのような流刑の地だったようです。千年前は漁師の住まいが点在していただけの寂しい場所だったのでしょうか。しかし、景色は良かったと思います。源氏物語は紫式部が石山寺で須磨の巻から書きはじめたといわれていますが、琵琶湖に映る月に須磨の情景を重ねたのかもしれませんね。境内に句碑が

ある松尾芭蕉も一度は須磨を訪ねてみたいと憧れていたように、この寺を訪ねています。

「源氏寺」として現光寺は親しまれていますが、月を眺めながら都を想い、琴や歌で寂しさを紛らわせた光源氏の暮らしのイメージが、この地に重なるのでしよう。源氏物語千年紀を迎えましたが、何か不可思議な縁を感じます。瓦礫の片付けをしていたとき、東京からきた学生の方に「源氏寺といっても何もないところだなあ」と言わ

震災復興をとげた本堂は、総ヒノキづくり。荘厳な雰囲気に含まれる



復興をとげた本堂の壁面には六鳥が舞う



国宝・源氏物語絵巻を模写した複製は、画家・橋本龍邦氏による



れ、そのときはなんと失礼な言い方ではないかと思ったのですが、その言葉をかみしめ、せっかく訪ねて下さった方が何もないと残念がることのないよう精進、安らぎと趣きのあるお寺でありたいと念じています。

「源氏物語フェスティバル」 の開催にあたり

2008年度は、紫式部が「源氏物語」を創作して以来、1000年目を迎えます。「須磨」を舞台に物語がはじまったと言われるこの地で、現光寺（源氏寺）において、「源氏物語フェスティバル」を開催できますことを、心より嬉しく思います。

阪神淡路大震災で、本堂は見

るも無残に全壊いたしました
が、檀家の皆様はじめ、有縁の方々の現光寺を愛する心に支えられ、再建に立ち向かい、見事に復興するに至りました。

10月1日の催しは、茨木一成先生のお話と、琴の演奏と歌、舞楽では、「五節舞」、「青海波」と、平安時代さながらの演目に胸の高まる思いがいたします。光源氏に想いをはせ、ごゆっくりとお楽しみください。



女人舞楽「原笙会」の生川純子さん、中村容子さんによる「青海波」



片岡洋恵さんによる「五節舞」

■ 潘架山 現光寺
神戸市須磨区須磨寺町1-16
☎0787319090
山陽電鉄山陽須磨寺駅下車、徒歩約4分
JR神戸線須磨駅下車、徒歩約5分



箏曲「源氏物語「須磨」」は、琴・茨木春重さん、茨木寛子さん、尺八・石川利光さん、唄・小泉美喜子



源氏物語千年紀を記念した催しの会場となる本堂



「源氏物語」千年紀 須磨・明石
の足跡を訪ねて

3

月を愛で、波音に耳をすませる

第11回

明石薪能

明石の秋の風物詩、明石薪能が9月13日、大蔵海岸の特設会場にておこなわれた。今年は明石海峡大橋開通10周年を記念するとともに、源氏物語千年紀にちなんだ番組も披露された。



涼やかな夕風そよぐ大蔵海岸に、10年ぶりに能舞台が登場。

第11回を迎える明石薪能では、明石海峡大橋をバックに幽玄の世界が広がった。源氏物語が世に出て千年、光源氏ゆかりの明石ゆえ、源氏物語を題材にした能「葵上」も番組に登場。好天にも恵まれ、座席は文化を愛する人々に埋め尽くされた。



火入式を行う井戸敏三兵庫県知事

番組は小谷泰朗明石薪能の会会

長の能奉行舞台改めからスター

ト。「淡路」「敦盛」など仕舞も

明石近辺にちなむ演目で、芸の真髄を観衆に伝えた。

続いて、火入れ式がおこなわれた。あかし観光大使「明石の君」

木村真理子さん、「光源氏」安田

峻介さんのおこした種火を神田章

宏明石青年会議所理事長が継ぎ、

袴姿の井戸敏三兵庫県知事、北口

寛人明石市長など6人の奉仕者の

たいまつへ。薪に火が灯され、神秘的なムードに。

井戸知事と北口市長のあいさつ

に続いて、狂言「膏葉煉」が披露

された。鎌倉の膏葉煉と都の膏葉

煉が自分の膏葉が強いと競い比べ

に出かけ、途中で一人が偶然行き違い対決する様子を、絶妙な掛け合いと仕草で好演。

最後はメインの「葵上」。怨念のあまり悪霊になった六条御息所の生霊が葵上に襲いかかり、それを行者が鎮めるという緊迫感のあるストーリー。スリリングな展開の中にも、時折訪れる静寂の向こうに波音と薪のはじける音も聞こえ、千年前の魂が時を超え甦るような雰囲気漂う舞台に、観衆は拍手を惜しまなかった。

盛況のまま終演した今回の薪能。丸い月も時々雲の御簾に隠れつつ、海辺に咲いた「まことの花」を愉しんだであろう。



大蔵海岸に移動された組立式の「明石公園能舞台」



鬼となった六条御息所を演じる能「葵上」



滑稽な動きを見せる狂言「膏葉煉」



開演を飾る「仕舞」

光源氏

「源氏物語」千年紀 須磨・明石

の足跡を訪ねて

明石公園

歴史ロマン、四季の移ろいを愉しむ



本丸跡の東端に築かれた異櫓

「子午線」の通る街・明石。

古代明石原人から、万葉の神祕、源氏物語の舞台にと古い歴史をもつ市内には、いたる所に由緒ある史跡や名所が残り、歴史のロマンたじよう。その明石市民の憩いの場となっているのが、明石城跡を中心につくられた明石公園。本丸跡には、異（たつみ）櫓と坤（ひつじさ）櫓が威容を誇り、城下町として栄えた名残を今に伝えている。園内には樹木や植物が繁茂し、春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉と四季の移り変わりを愉しむことができる。平成に入つて、「日本の都市公園100選」「全国さくら名所100選」にも選ばれるなど、市街地にありながら野趣にあふれている。その他、野球場、陸上競技場、テニスコート、芝生広場、子どもの村なども整う。

明石公園案内地図



① 明石城武蔵の庭園

刻豪・宮本武蔵(1584-1645)は、出生地である播磨地域には多くの足跡を残しており、明石においても、1617年に着任した初代城主小笠原忠政に招かれ、明石の町割り(都市計画)や城内樹木屋敷の設営にかかわった。その樹木屋敷を再現し、春・秋の毎週日曜日には、抹茶が振舞われている。



② 森林浴

緑があふれる公園内を散策してみると、心身が自然に浄化されたかのよう。特に、「剛ノ池」周辺は、山林を歩いているかのように深い緑に覆われ、鳥たちのさえずりも心地よい。



③ 剛の池

公園の中は、多くの池や堀がめぐらされているが、その中でもっとも大きいのが「剛の池」。カモなどの水鳥と共に、ボートに乗って水上散歩を楽しむことができる。料金／手漕ぎボート600円(30分)、足漕ぎボート600円(20分)



④ 明石公園能舞台

平成19年、(財)兵庫県園芸・公園協会が明石公園の県立都市公園90年を記念して完成した移動式能舞台。歴史と文化の息づく明石のまちにふさわしい伝統芸能を今に伝える。去る9月13日には、源氏物語千年紀を記念して、大蔵海岸に移動され「第11回明石新能」が催された。



ひょうご
まちなみガーデンショー
in 明石

「源氏物語」千年紀 須磨・明石
光源氏の足跡を訪ねて

花香る秋の明石公園



問い合わせ
(財)兵庫県園芸・公園協会
兵庫県明石市明石公園1-27
078-918-2405
<http://www.hyogo-park.or.jp/midori/>

「花と緑の文化の創造・環境と調和した花と緑」をテーマに開催。コミュニティガーデンや寄せ植えなど、さまざまな団体が出展する「ガーデンコンペ・ひょうご」やデモンストレーションガーデン、幼稚園児による花の絵画まで、幅広い展示内容。花と緑の体験教室や、人気の即売会もおこなわれる。オーブニングセレモニーやフォーラムなどのプログラムも。メイン会場の明石公園のほか、明石銀座商店街、明石駅のコッコースも花と緑に包まれる。



開催日時…
平成20年10月4日(土)〜13日(月・祝)
場所…
県立明石公園及びその周辺
(JR明石駅コッコース、明石銀座商店街、
明石商工会議所等)

ひょうごローズクラブ

県内のバラ愛好者や生産者が集結、昨年6月に結成された会。バラを通じた文化活動や、花と緑のまちづくりに貢献することを目指している。広く県内外のバラ愛好家との交流を通じ、バラのある暮らしの実践や提案、バラに関連する産業の促進など幅広い活動をおこなっている。会員には会報誌『バラの香り』や講習会などの特典が。バラを愛する方はぜひ入会を。

問い合わせ

財団法人 兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター
「ひょうごローズクラブ事務局」
078-9182405

「源氏物語」千年紀 須磨・明石
の足跡を訪ねて

光源氏

第80回明石公園菊花展覧会

大正15年(1926)より戦争直後の3年間を除いて毎年開催されている恒例の菊花展。全国でも屈指の歴史と伝統があり、出品作品のレベルの高さでも知られている。今年は記念すべき80回目の開催となる。

端正な大菊、ダイナミックな懸崖菊、繊細な盆景と、菊花の愛好家たちの肥えた眼にも感動を呼ぶ秀作が一堂に会する様は圧巻。また、学校花壇や市民花壇など親しみやすいコーナーも。また、小菊苔玉など、しつとりとした風情ある作品も愉しめる。毎年菊の宝船も登場。撮影スポットとして人気がある。アクセスも便利なので、買い物がてらや散策にも是非。

期間:10月25日(土)~11月16日(日)

※出品作品の審査は11月4日(火)

入場:無料・一般公開

会場:明石公園(JR・山陽電鉄明石駅北へ徒歩5分・有料駐車場あり)



問い合わせ
明石市立花と緑の学習園
078-924-6111



「源氏物語」千年紀 須磨・明石
の足跡を訪ねて

4 源平の悲哀、 行平の無念さを今に伝える

大本山 須磨寺

須磨を語る上で欠かすことのできない須磨寺。
「平家物語」ゆかりの名所として知られ、
物語にちなんだ名所や宝物が現存する。



「平家物語」の中でもっとも美しく、悲しい話として語り継がれる平敦盛・熊谷直実の一騎討ち。「源平の庭」では、白砂青松の浜辺を再現し、敦盛と直実が対峙する姿に、かつて須磨が古戦場であったことを物語る。敦盛公の首実検の際、源義経が座ったといわれる「義経腰掛けの松」、敦盛の首を祀る「首塚」など、境内には源平ゆかりの史跡が点在している。

また、光源氏が手植えしたと言われ、歌舞伎「一の谷嫩軍記」にも登場する「若木の桜」跡も残されている。静寂な境内に響く「須磨琴」は、源氏物語

ゆかりの楽器である。「一絃

琴」ともよばれる須磨琴の歴史は平安時代にさかのぼる。光源氏のモデルのひとり、在原行平が須磨の地へ流された際、渚に打ち寄せられた板切れに冠の糸を張った琴を弾きながら、はるか都をしのんだと伝えられている。昭和40年に、須磨寺前管長・故小池義人さんが一絃須磨琴保存会を発足し、現在は代表の小池美代子さんの指導のもと、会員たちが熱心に稽古に励んでいる。源平の悲哀、行平の無念さを音色に変えて、現在に語り継いでいるようだ。



敦盛の首塚



平敦盛、熊谷直実の一騎打ちを再現した「源平の庭」



昨年、須磨離宮公園の「月見の宴」で奏でられた須磨琴



義経腰掛けの松



小池美代子さん指導のもと
須磨寺の稽古に励む会員



昨年、落慶した大師堂

大本山 須磨寺
神戸市須磨区須磨寺町
TEL.078-731-0416(代)
<http://www.sumadera.or.jp>



古くは万葉集にも詠まれ、月見の名所としても知られてきた須磨。現在でも月見山町、離宮前町などの地名が残り、歴史上の人物が、しばし訪れたという事実をうかがい知ることができ

「源氏物語」千年紀 須磨・明石
光源氏の足跡を訪ねて



美味と名湯で、
ことぶき ろう
寿楼

りん すい てい
臨水亭

美味と名湯で、須磨の旅情を愉しむ

そんな歴史情緒あふれる街並みに佇む「寿楼 臨水亭」は、JR「須磨駅」より車で約5分、山陽電鉄「須磨寺駅」からだ徒歩約5分。源平ゆかりの須磨寺からは、徒歩数分の池の畔に佇む。その名の通り、部屋はすべて池に面している。この界隈は、古くから霊泉「須磨温泉」で知られている。多くの湯治客に愛され、神経痛・婦人病・胃腸痛などに効能があるという。月明かりに照らされた最上階・庭園風呂と露天風呂で、かつて須磨を訪れた芭蕉が詠んだ句などを思い浮かべながら、この名湯でゆっくり旅の疲れを癒したい。ゆったりとしたお部屋では、明石海峡でとれた海の幸、但馬牛など地産の食材に舌鼓。須磨での旅情気分をいっそう盛り上げてくれる名旅館だ。

須磨温泉 寿楼臨水亭

◆1泊2食／1室2名 18,000円～(休前日は2,000円UP)

本館寿楼は 13,000円～

◆食事休憩／6,000円～

◆入浴のみ／なし

◆泉質／ラドン温泉

◆効能／神経痛・胃腸病・婦人病など

◆客室／別館臨水亭 和21・本館寿楼 和32室

兵庫県神戸市須磨区須磨寺町3-5-18

TEL 078(731)4351 FAX 078(731)2475

URL <http://www.kotobukirou.jp>

★アクセス／第二神明道路須磨ICより5分、月見山ICより5分



須磨散策 MAP

